



## コウモリはどうしてさかさにとまるの、<sup>あたま</sup> <sup>ち</sup> <sup>のぼ</sup> 頭に血が上らないの

### コウモリは、<sup>ほんあし</sup> <sup>き</sup> 2本足で木にとまれなくなった

コウモリの先祖は、虫をとって食べる、トガリネズミやモグラなどに近い、ほ <sup>にゅうい</sup> <sup>な</sup> <sup>かま</sup> 乳類の仲間だったようです。コウモリは鳥のように見えますが、イヌやネコと同じ、子どもをお乳で育てる、ほ <sup>にゅうい</sup> <sup>な</sup> <sup>かま</sup> 乳類の仲間なのです。

コウモリのつばさは、よく見ると、人間の手のひらを広げた形と似ています。指の骨が大きくのび、指の間 <sup>ゆび</sup> <sup>あいだ</sup> にうすい膜が張られた形 <sup>まく</sup> <sup>は</sup> で、つばさになっているのです。

鳥でないコウモリは、空を飛ぶために、体重を少なくするような体のつくり <sup>からだ</sup> に変わってきました。コウモリは、足も軽くするため細くなったので、鳥のように2本足で木にとまることができなくなり、ぶら下がって <sup>さ</sup> <sup>かた</sup> 体重をささえるやり方 <sup>たいじゅう</sup> になったと思われます。このぶら下がっている形 <sup>かたち</sup> は、すぐ飛ぶのにも便利 <sup>べんり</sup> なのです。

### <sup>からだ</sup> <sup>ちい</sup> 体が小さいから <sup>あたま</sup> <sup>ち</sup> <sup>のぼ</sup> 頭に血が上らない

日本にいるコウモリは、たいてい、つばさの部分以外の体 <sup>からだ</sup> は、ネズミより小さいぐらいです。たとえば、キクガシラコウモリの <sup>たいじゅう</sup> 体重は20グラム、コキクガシラコウモリなどは、<sup>たいじゅう</sup> 体重わずか7グラムです。体が小さいと、人間などに比べて、<sup>なが</sup> <sup>けつえき</sup> <sup>りょう</sup> <sup>すく</sup> 流れる血液の量も少ないですから、さかさになっても、あまり <sup>えいきょう</sup> 影響はないようです。コウモリの首の部分にある血管 <sup>くび</sup> <sup>ぶぶん</sup> が、<sup>のう</sup> <sup>おく</sup> <sup>けつえき</sup> <sup>ちようせつ</sup> 脳に送る血液を調節 <sup>せつ</sup> しているという説もあります。(監修・今泉 忠明)

コウモリのつばさと人間の手

